



段落の要約

チェック

名前

月 日

次の『ヤドカリとイソギンチャクの関係』を読んで、後の問いに答えましょう。

① 海岸のよく目につくところで、貝とは思えない速さで動いている姿があります。あれは貝ではなく、貝がらを背負ったヤドカリです。

② ヤドカリは、名前のように空き家になっている貝のからを借りて、すんでいます。体がやわらかいので、かたい貝がらに閉じこもって敵から身を守ります。

③ そんなヤドカリがイソギンチャクといっしょに暮らしている様子を見てみましょう。

④ イソギンチャクは元々岩などにくっついていて、自分で動くことができません。しかし、ヤドカリの貝がらに乗せてもらうことで、あちこちに移動ができます。

⑤ 一方、ヤドカリは天敵のタコなどにおそろわられても、イソギンチャクがとげにある毒で守ってくれます。

⑥ ヤドカリは、イソギンチャクを見つけるとイソギンチャクをその岩場から、自分の貝がらに移します。そして、新しい貝がらに宿をかえるときにも、イソギンチャクを古い貝がらから、新しい貝がらへと連れていきます。身を守ってもらうためです。

⑦ このようにヤドカリとイソギンチャクの関係は共生という助け合いで成り立っています。

(1) ①の文を一つの文に要約しましょう。

海岸で動いている貝は [] を [] ヤドカリです。

(2) ②の文を一つの文に要約しましょう。

ヤドカリは [] ので、 [] を閉じこもって身を守ります。

(3) ④の文を一つの文に要約しましょう。

イソギンチャクは、 [] で [] ので、ヤドカリの貝に [] 移動します。

(4) ⑤ヤドカリの天敵は何ですか。

(5) ⑥の文でヤドカリはなぜイソギンチャクを連れていきますか。

(6) ⑦ヤドカリとイソギンチャクの関係はどんな関係ですか。

[] の関係



段落の要約

ワーク①

名前

月 日



その文章の意味の要点をとらえて短くまとめることを要約するといいます。

- ① 要約には二文・三文を一文に、まとめる力が必要になる。
- ② 主語・述語・重要な修飾語を入れて、短くまとめる。自分の言葉もつかえる。
- ③ 中心の文の、必要な述語から決めていく。

〈例〉

- ① 海岸でよく目につくところに貝がらが動いている。
- ② あれは貝ではなくヤドカリだ。

← 二つの文を一つの文にすると、

海岸で

よく目につくところに

貝がらが動いているのは、

あれは貝ではなく

ヤドカリだ。

← 要約すると、

海岸で貝がらが動いているのは、ヤドカリだ。



次の『柿が赤くなると、医者が青くなる』の①～③の段落の中で、中心になる主語に――、述語に――を引き、重要な修飾語を考えて、各段落の要約文を完成させましょう。

① 柿。秋が旬の赤みがかかった果物だ。これを冬でも食べられるかん味の保存食として、昔の人が工夫したものが干し柿である。

② まず、「柿が赤くなると、医者が青くなる」ということわざがあるほど栄養価が高い柿。実際ブドウ糖のほか、β-カロテン、ポリフェノールの一種のタンニン、ミネラルなどの栄養をバランスよくふくんでいる果物だ。そして、柿は干すことにより栄養価やあま味が増し、よりよい健康食品となる。

③ 地域によっては、「幸せをかき集める」とお正月のえん起物にもなっている干し柿。昔の人は、成分がわからずとも、どうすればあま味や栄養が増すかや、保存食とできるかを創意工夫と経験で発見してきたのだ。

① 柿を冬の保存食として、
干し柿である。
が

② 柿は栄養をバランスよくふくんでいるが、
健康食品となる。

③ 昔の人は、
が増すかや、
を発見してきたのだ。



段落の要約

おさらい

名前

月

日



次の『入道雲と雷雲』を読んで、後の問いに答えましょう。

A 「明日は雷雲が発生し、雨模様となるでしょう。」

気象予報士がテレビで話しているのをみなさん聞いたことありますよね。

雷雲の正式名称は積乱雲で、春先から夏にかけての暖かい日に見られます。また、もくもくと盛り上がっている形が、入道（坊主）の頭のように見えることから入道雲とも呼ばれます。

この雲のでき方を説明します。

B まず、日光により地面近くで水蒸気をたくさんふくんだ空気が温められて軽くなり、空高くふき上げられます。すると、その中の水蒸気は上空で冷やされて多くの水のつぶになります。

それが雨となって降り出します。これが急に起こるにわか雨です。

C さらにその空気が上空にまで上がった場合、水のつぶは雨ではなく、氷のつぶとなります。

それがそのまま地上まで落ちてくると、氷のかたまりのヒョウと呼ばれます。

このとき上空では、氷のつぶの激しいぶつかりあいが起こっており、雲の中に静電気がたまります。

これが雷の元になります。

D 雲の中にたくさんたまった電気は、やがて、雷となって光を出したり、激しい音を出したりします。

このとき、空気中から地上に向かって、何万ボルトという電気が流れるのです。

これを落雷と呼んでいます。

ときには停電も起こし、人間の生活に大きな被害をもたらすことがあります。

※静電気……物がこすれたりしたときに起きる電気のこと。

(1) 雷雲の正式名は何ですか。

□

(2) にわか雨が降るまでの様子を要約して書きましょう。

① まず、日光により

温められて軽くなり、空高くふき上げられます。

② すると、その中の水蒸気は

なります。

③ それが

降り出します。

(3) さらに上空にまで上がった場合の空気はどうなりますか。

水のつぶは

となり、

そのまま地上まで

と

と呼ばれます。

(4) **これ**が指している内容を書きましょう。

中にたまった

(5) 落雷とは、どんなものですか。



準備が勝敗を分けた、長篠の戦い

名前

月 日

次の『準備が勝敗を分けた、長篠の戦い』を読んで、後の問いに答えましょう。

戦国の世、武田家は大名の信玄が京への行軍中に病死し、息子の勝頼がそのあとをついでいた。

そこへ、足利将軍が武田家をたより、勝頼は父のためにも、京への進軍を決める。

一方、織田信長は付近の敵をたおし、信玄のいなくなった武田家に目を向けていた。

一五七五年、勝頼は通り道にある、徳川家の長篠城を攻めた。徳川家康は、信長と連合軍を結成し、急ぎ長篠城にかけつけた。

織田・徳川連合軍は、三万。武田軍は、騎馬隊を中心とした一万八千であった。

数では負ける勝頼だが、当時無敵と呼ばれた騎馬隊をもっていたのだ。

反対に数で勝る信長だが、準備をおこたらず、騎馬隊を足止めする防馬さくと三千丁の鉄砲を使った新戦術を考えていた。

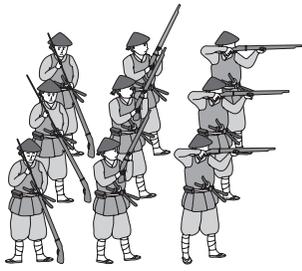
朝もやが消えはじめるところ、武田の騎馬隊が攻めよせてくる。

①、防馬さくの内側の織田・徳川軍はどっしりと待ち構えている。近づく騎馬隊が防馬さくでひるむと合図の音がひびく。

鉄砲の音がする。最前列がうたれるも武田軍はとつげきをくり返す。が、矢つぎ早に鳴る鉄砲の音。織田の鉄砲隊は横三列になって交代でうち続けた。

前列がうつと後列に下がり、中列・後列はたまをこめながら前列へ進む。この三段うち戦術は、今まで弱点であった鉄砲をつつまでの時間を短くする、新戦術だった。

無敵と呼ばれた武田軍は、大敗。天下無敵という名声を失ってしまった。



(1) 勝頼が京へと進軍した理由を書きましよう。

(2) 長篠城は、だれの領地ですか。

(3) 信長が準備していたことを二つ書きましよう。

(4) この戦いが始まった時間帯は、いつごろでしたか。

(5) ①にあてはまる言葉を□から選んで書きましよう。

しかし、そこで、そして、だから

(6) ①とは、どんな戦術ですか。

(7) 勝頼が失ってしまったものは、何ですか。

A vertical rectangular box with a dashed line inside, intended for writing the answer to question 7.